

岐阜大学医学部看護学科
母子看護学講座

今田 薫子 准教授

研究室から

母性看護学分野では、本学理学部融合本部の支援のもと、技術よく、研究学会の中で一人工学的手法を取り入

れた看護の研究会」を
立ち上げ、本学工学部
人間情報システム学科
の教員と協同して、助
産学生のための看護技
術の早期習得に関する
研究に取り組んでいま
す。

母性看護学と人間工学 融合

術の早期習得に関する
研究に取り組んでいま
す。

助産技術は、分娩、
沐浴（もくよく）、授
乳介助など妊産婦（じ
産婦）の健康と安全の
確保は日増しに重要な
役割を果たしています。
工学など他の成熟した



専門学分野と比べると
成長過程にある学問分
野であると言えます。
そのため、初学者へ
の助産技術の教示は口
伝的で経験主義的なも
のに頼るところが未だ
存在しています。人間
工学分野の手法を取り
入れることにより、定
量的な結果が示せま
す。例えば、乳房触診
技術では、熟練助産師
がどのように乳房触診
を行っているのか手の
動き（この部位をどの

程度の力でとった手順
で）をさまざまな測定
機器を活用して解明
し、その手の動きを模
擬体験できるような教
示用模型や教示方法を
開発します。
初学者が「この模型を
学内演習で活用すれ
ば、臨床実習では確実
に乳がん検出をかけるこ
となく自信を持って合
理的な乳房触診が行え
る」というわけです。私
たちは「このような研究
を通して、産官学と連
携し、産官学を旨と
したい」と考えていま
す。